

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。この用紙1枚に記入し、PDFファイルに変換した後、ホームページに貼り付けてください。

学校名	熊本大学 日奈久中学校	個人・ グループ名	大楠ユウ	作品名	私の焼き印
-----	----------------	--------------	------	-----	-------

□製作の動機□

●大学の金属加工実習で、金属を利用したもののづくりとして、研究室の先輩が考案した焼き印をベースにして、2007年12月に製作した。

□製作方法・特徴・感想□

- 材料には、大学の工場にあったφ50の真鍮の丸棒と、針金を利用した。
- 真鍮の丸棒は旋盤で加工を施した。
- 針金と本体はタップとダイスでねじをきり、接合した。
- 針金は折り曲げ加工をし、そのまま柄とした。熱の問題はない。
- 印字面には、まず字割をし、油性マジックを使用し左文字で名前を墨入れた。
- 印は自分の名前を使用し、シンプルなひらがなでのデザインとした。円周部分に「す」の字を伸ばし、ぐるっと一周させた。
- 彫刻はミニルーターで行い、まず縁を彫り、その後残りを彫った。
- 深さは2mmほど彫れば十分である。
- 彫っていると、ルーターの回転の摩擦力に腕力が負けて、ビットが跳ね、印字部分に当たってしまうことがある。しかし、焼きを入れれば、木が焼け凹み、ほとんど目立たないので、気にしなくてよい。
- 焼きを入れる際、円周部分の「す」のすき間から、煙が勢いよく出てくるので、なんとなく面白味がある。
- 紙にも押することができる。
- 本体部分を大きめにしたので、コンロ強火5分の加熱で、約30連打できる。
- 技術科の教員として、一生使える結構役に立つアイテムである。
- 現在、技術室に置いてあり、もっぱら自分の製作した作品に押している。ときどき、希望する生徒もいるので、そんな生徒の作品にも押してあげる。

